490　^{111}In標識モノクローナル抗体Nd2の膵癌画像診断への臨床応用

金銅康之，澤田鉄二，鄭 容錫，曽和融生（大阪市大第一外科），細野雅子，小田淳郎，越智宏暢（大阪市大放射線科），Y.S.Kim（UCSF）

^{111}In標識Nd2を用い，膵癌の画像診断への臨床応用を試みた．術前の諸検査にて膵癌と診断されたもの5例，膵癌局所再発1例を対象とし，^{111}In標識Nd2(2mg，2mCi)を2%アルブミン加生食100mlにて点滴静注後，第1，3日目にスキャンした．その結果，腫瘍の陽性描画は6例中3例に認められ，その内訳は2例が膵癌，1例が膵癌局所再発例であった．一方，陰性であったもの3例は，1例が膵癌であったが，他の2例は腫瘤形成性膵炎およびインスリノーマであり，悪性所見は認めなかった．以上の結果からNd2は膵癌の画像診断，特に質的診断についてその有用性が示唆された．

491　Ｇ－２２抗体（抗グリオーマ抗体）を用いた脳腫瘍Radioimmunoimagingの検討

田所匡典，加藤隆司，伊藤健吾，山下雅人，青山裕一，三島　厚，佐久間貞行（名古屋大学放射線科）　大島統男（名古屋第一日赤放射線科）　吉田　純，若林俊彦，杉田虔一郎（名古屋大学脳神経外科）

グリオーマ再発症例９例に対しＧ－２２抗体（抗グリオーマ抗体）を使用したRadioimmunoimagingを行った。I-131，またはIn-111-DTPA で標識後、静脈内点滴投与し、ガンマカメラを用い経時的に撮影した。多形性膠芽腫４例、悪性星細胞腫１例において腫瘍への集積像を認めたが、星細胞腫４例では腫瘍部への集積はほとんど認めなかった。全症例において副作用は認めなかった。Ｇ－２２抗体Radioimmunoimagingは脳腫瘍の組織特性に関連した画像診断であり、組織型診断の手法として有用と考えられた。

492　抗ミオシン抗体による腫瘍浸潤の診断

窪田和雄、＊石渡喜一、窪田朗子、山田　進、佐藤多智雄（東北大・抗研・放、＊同・サイクロ）、尾形優子（仙台厚生病院）、渡部博之（第一ＲＩ研）

腫瘍が周囲組織、特に筋肉に浸潤しているかどうかは治療に際し重要な問題となる。^{111}Ｉｎ標識ミオシン抗体を用いて、腫瘍が浸潤した筋肉を描出できるかどうか、モデル実験を行った。ラット大腿筋に移植したAH109Aへのミオシン抗体の集積は投与２４時間で最も高くなり、腫瘍辺縁／正常筋比は5.0であった。マクロＡＲＧでは腫瘍周囲に集積があり、ミクロＡＲＧでも腫瘍の辺縁及び筋肉にグレインが見られた。ウサギ大腿筋に移植した、VX2のガンマカメライメージングでは、投与直後から１時間では、リング状に腫瘍は描出され、血流亢進も寄与すると考えた。２４、４８時間後で共に腫瘍は明瞭に描出された。

Presented by Medical*Online